

令和6年度 あゆみこども園 自己評価結果 報告書

1. 総評

全体を通して、保育理念や基本方針が職員・保護者双方に十分に浸透しており、質の高い保育が提供されていると評価されている。特に、子ども主体の保育（プロジェクト保育、異年齢保育）の実践や、職員間の風通しの良さは強みとして挙げられる。一方で、人材確保の難しさや、設備面での一部課題、地域連携の広がりについては改善の余地が見られ、次年度に向けて具体的な取り組みが必要であると考えられる。

2. 評価できる点

① 理念の共有と組織風土

- ホームページや説明会でのプロジェクター活用など、保護者への分かりやすい説明が工夫され、理念が周知されている。
- 職員間の関係性が良好で、悩み相談がしやすい雰囲気醸成されている。有給休暇も取得しやすく、ワーク・ライフ・バランスへの配慮がされている。

② 子どもの主体性を尊重した保育内容

- 「プロジェクト保育」や「異年齢保育」を取り入れ、子どもが自分で遊びを選べる環境が整えられている。
- 一斉画一的な保育ではなく、個々の育ちや家庭背景を踏まえた柔軟な援助が行われている。

③ 安心・安全と健康管理

- アレルギー対応において、全保護者への周知や医師との連携が丁寧に行われている。
- 嘔吐処理やAED等のマニュアルが各部屋に掲示され、即座に確認できる体制が整っている。

3. 今後の課題と改善点

① 人材確保と定着

- 園見学や実習生の受け入れを積極的に行っているが、職員の確保と定着には依然として課題が残っている。
- ボランティアの受け入れ体制はあるものの、広報不足により希望者が集まっていない現状がある。

② 安全対策（設備面）

- 毎月の避難訓練は実施されているが、地震対策としての「棚の固定」など、ハード面での細かな詰めが必要である。

③ 職員の意識向上と専門性

- 自己評価や振り返りは行われているが、意識の向上は「発展途上」との認識があり、研修成果をより深く保育に落とし込むことが求められる。
- 経営状況や予算などの管理者視点での情報について、一部職員の理解が十分でない側面がある。

④ 地域ニーズの把握と負担軽減

- 保護者対応は手厚い一方で、広く地域の福祉ニーズを把握するには至っていない。
- 虐待予防等の対応において、担任への精神的・業務的負担が大きいため、組織的なフォロー体制の強化が必要である。

今後のアクションプラン

- 設備:** 早急な棚の固定等の地震対策実施。
- 広報:** ボランティア募集のチラシ作成やSNSを利用した求人募集・情報発信を強化。
- 研修:** 経営状況の理解を深める園内研修の実施、および虐待対応ケース会議の定例化による担任負担の軽減。